DEADHEAT 35YEARS PASSED

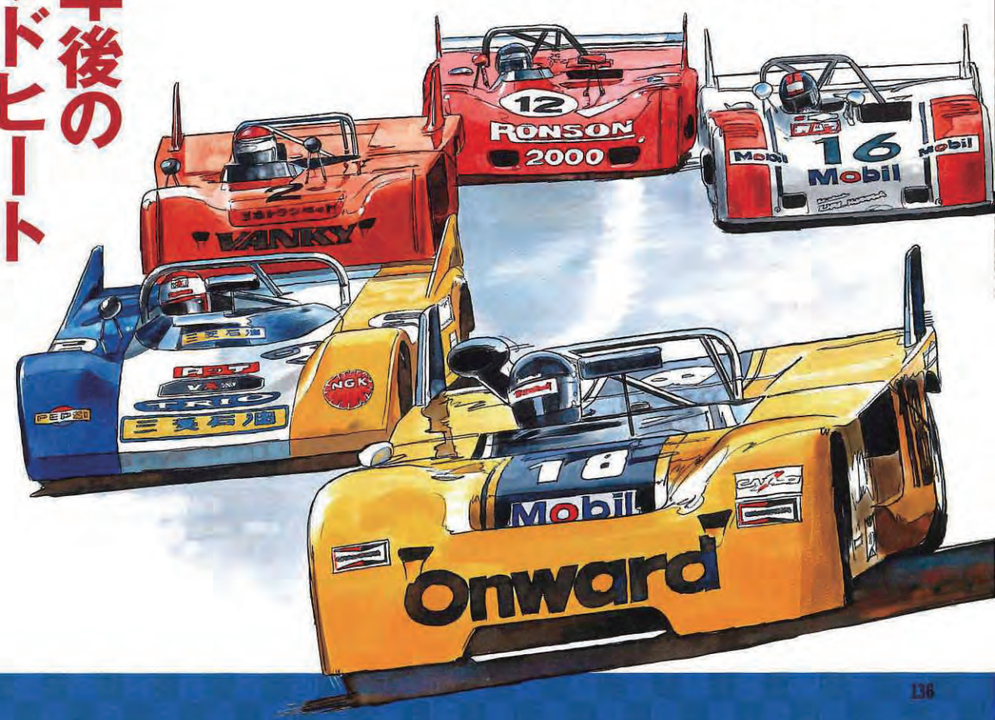
35年後のデッドヒート

鮒子田寛、長谷見昌、北野元…。日本のモータースポーツ史に燦然と輝く富士グランチャンピオン・シリーズのスタードライバーが、35年後の今ふたたび火花を散らす！あやつるマシンは当時のまま。だがそれは1／24スケールのスロットカーだった。

GC(グランチャンピオン)シリーズ2008 エキシビジョン・レース

24.Feb.2008
スロットカー.サーキット レーシング・パラダイス世田谷

photo&text Telly Sahara 佐原輝夫 http://www.tellysworks.com
主催：モデルカー・レーシング・ファンクラブ



Chapter.1

富士グラチャンシリーズに魅せられた少年たち。彼等の夢がいまかなう！

ニッポン旧車がばりばりの新型車だった70年代初頭、富士グランチャンピオン・シリーズ、通称グラチャンが始まった。最新レースカーによるトップ・ドライバー同志の激突は大人気となった。このグラチャンのスタードライバー鮒子田寛氏に魅せられ、今日までずっと尊敬し続ける男がいた。鮒子田氏が海外から戻り国内でチームを率いていた時、彼は意を決して会いに行き、親好を深めて来た。あこがれを持ち続けたからこそ巡ってきた出会いだった。

さらにもうひとりの男がいる。当時高校生で、富士スピードウェイに電車とバスを乗り継いで通った彼のひいきは生沢徹と鮒子田寛。年とともに思いは募り、やがて自分で集めた資料をもとに詳細なホームページを作るまでになった。当の鮒子田氏はそれを見て驚き、彼にコンタクトしてきた。「あなたと面識ありましたか？」それが最初の言葉だったという。

そして三人は出会い、スロットカーによるグラチャン再現の構想が生まれた。当時の情熱を失わない彼等と、その熱意を受け止めた、あたたかな鮒子田氏がいたからこそ実現した企画だった。

さあいよいよスタート！　コースは外周がバンク付きのハイスピード、インフィールドはかなりテクニカル。減速のタイミングが勝負だ。

クラブ員とゲストのマシン。実在のマシンにできるだけ忠実に作られた。好きなドライバーのカラーを選び、丹念に仕上げられている。この故風戸裕選手の乗ったシェブロンは当時彼と交流のあったクラブ員のもので、それだけに思入れの度合いもちがう。模型は自分で作るタイムマシンなのかもしれない。

集まったドライバーたち。1：津々見友彦選手。第1回日本GP出場の大御所。2：三崎清志選手。72年マカオGP優勝。3：鮒子田寛選手。72年GCチャンピオン。4左：寺田陽次郎選手。いまだに現役。74年よりルマン連続出場中。4右：高橋晴邦選手（右）シグマで73年ルマンにも出場。5：北野　元選手。68年日本GP優勝。70、71年にシリーズ2勝。6：服部尚貴選手。招待ドライバーとして参加。ラジコンも速い！ 7：鮒子田選手のシェブロン。8：招待の道上龍選手のマシン。もしGCならこう、という空想マシンだ。

ルマン常連の寺田氏。かつてのレース仲間から「24時間でやったら寺田さんの勝ちだな」と冗談が飛ぶ。

右：ちょっとウイング起こしてくれないかな、とマジな長谷見選手。74年チャンピオンだ。日本GPのローラT70の話が止まらなくなった。　左：道上選手はラジコンもめっぽう速い。おとうさんのような先輩に混じって緊張のおももち。

Chapter.2

年はとっても当時のキャラクターは不変。集まった七人のサムライたち。

左：自分の愛車の再現具合に感心し、大事そうに手にとる。マシンはプレゼントされた。中：シェブロン、マーチ、ローラ。なつかしいマシンがずらりと並ぶ。故鈴木誠一選手の愛車も…。右：コクピットも抜かりなく作りこまれ、もちろんヘンルメットも実物同様のカラーリングだ。

鮒子田氏のはからいで出会ったTさんとMさんは大のスロットカーファン。Tさんはさっそく仲間に声をかけ、スロットカー・グラチャンの実現にむけて動きだした。Mさんはボディの製作を担当。古いレースカーの再現でもっとも困難をきわめるのがデカールだ。クラブ員のひとりがPCを駆使して用意した。定番マシン、ローラとシェブロンは細かい仕様のちがいは目をつぶり、塗装と雰囲気で楽しむ。国産初ルマン挑戦で話題となったシグマはプラ板からのスクラッチビルドだ。

一方鮒子田氏は、かつてはチームメイト、ライバルだったドライバーたちに、シリーズ開幕戦に合わせて開催するグラチャンドライバー・ゲストレースに参加するよう呼び掛けた。グラチャンはドライバーがチームを作り、スポンサーをとってマシンを購入して戦う、当時としては画期的なレースで、マシンよりドライバーにより重心がかかけられたシリーズだった。だからグラチャン創世期のドライバーたちのこのシリーズへの思いもまた強い。

当時のスピードウェイのスタッフ福士克二氏やベテラン・レースカメラマン原富治雄氏も加え、あっという間にフルグリッドを超える人数が集まった。その豪華すぎるエントリーリストに、TさんとMさんは身震いした。

Chapter.4 その日だけ蘇った富士スピードウェイ30度バンク

主催クラブMFCのシリーズ第1戦とその豪華な「前座」レース、グラチャンドライバー・ゲストレースの会場レーシングパラダイスは熱気に包まれた。かつてドライバーだった人、ファンだった人、記者だった人、伝説を聞いて育った若い人たちみんなのグラチャン同窓会がいま始まったのだ。

練習ではコースアウトも多かった各ドライバーだがさすがに百戦錬磨、本番ではみなステディなドライブに徹する。今や仕事を放棄し、いちギャラリーと化した報道陣も大興奮。

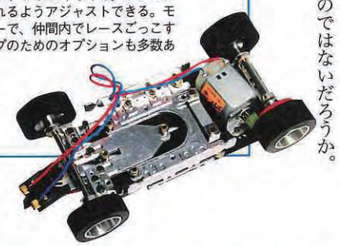
それもそのはず、コース上のマシンにはそれぞれ本人が「乗っている」のだ！全長20センチのスロットカーはそのままあの富士の30度バンクを走るシェブロンであり、ローラ、シグマだった。

「それを作れば彼等はやってくる」。映画「フィールド・オブ・ドリームス」のコピーだ。富士グラチャン・スロットレースは35年の時を超えてグラチャンを愛し続けた男たちによって作られ、そこに「彼等」はやってきた。まさに「レース・オブ・ドリームス」だったのではないだろうか。

レースを終えて全員で記念撮影。「いやあ最高に楽しかった、またやろうよ！」と盛り上がる。

今楽しいスロットカー

今回のレースで使用したシャーシ、プラフィット3。プラモデルのボディならなんでも乗せられるようアジャストできる。モーターは誰でも扱いやすいパワーで、仲間内でレースごっこするのにちょうどよい。性能アップのためのオプションも多数あり、シンプルで奥の深いスロットカーレーシング入門に最適な1台だ。価格5780円　問い合わせ/レーシングパラダイス世田谷Te03-5707-4352l



あのピーターブロックがBREオフィシャルサイトをスタートアップ！

速報！

DATSUN510ピンバッジ、240Zピンバッジを各2名様に。

官製はがきに、住所、氏名、年齢、電話番号、ピーターへのメッセージをお書き添えの上、弊社までお送り下さい。締め切りは5月31日消印有効。当選者の発表は、賞品の発送を持って代えさせて頂きます。

〒158-0097
東京都世田谷区用賀4-5-16
TEビル
株式会社枻出版社
Lightning編集部
「VITAGE AUTO 13」プレゼント係

www.bre2.net

世界中のダットサンファンから神のように尊敬され親しまれているBREのピーターブロック氏。近年はゲイル夫人とともにレースフォトグラファー、ジャーナリストとして多くのメディアに寄稿し、あいかわらずアクティブで熱いパッションを見せてくれている。そのピーターブロック氏が、BREのオフィシャル・サイトをオープンさせた。

注目はいろいろなオフィシャルアイテムを購入できるオンラインショップだ。70年代に510でトランザムシリーズを席巻した時とまったく同じチームポロやオリジナルTシャツから、キュートなピンバッジ、イラスト入りマグカップなどがラインナップされている。ディテールの再現がすばらしいラジコンカーキットや、ピーター自身が当時撮影したBRE510、240Zレーサーの貴重な写真も要チェックだ。

BREオフィシャルサイトスタートアップ記念として、ヴィンテージオートの読者に、ピーターから素敵なプレゼント！

右：往年の記者、カメラマンもドライバーを囲んで昔の思い出話に熱中する。みな若く熱かった。左：スロットレースは全レーンを一巡して行う。次々とポイントが書き込まれる。

スタートラインでシグナルを待つ。「本物よりどきどきだ！」。中央のノバ53Sは服部選手のマシン。少しあとの世代、星野一義選手のマシンだ。「トレッド広いんじゃない？」と突っ込みが！

Chapter.3 思いをこめて1台1台作られた1／24GCスロットカー

あのグラチャンのドライバーが往年の自分のマシンのスロットカーで戦うという前代未聞のイベントをひかえ、TさんとMさんは寝る間もないほどの忙しさだった。自分達が走らせるマシンと平行して、ゲストドライバーのマシンも用意しなければならない。

手作りボディは重量にばらつきがあり、モーターにも固体差があってイコールコンディションにするのがたいへんだった。かつてのツワモノたちに、「自分のマシンが人のより遅い」ということへの寛容な心はない。年を重ねておだやかな顔つきとなった彼等だが、中身は当時のままに熱い人たちなのだ。レース前日のテストで、すべてのマシンが同じくらいのラップタイムとなるよう入念にセッティングされた。

一人ずつの予選にのぞむ三崎選手。コースインさせるクラブ員のサポートも万全だ。「昔スロットカーがはやったころは実車に夢中で、模型など眼中になかった」といいつつタイムアタックでは見事にマシンをコントロール。先輩ドライバーたちの野次にもめげずポールポジションをゲットした。

1

2

4　5　6

7

1.当時のチラシ。当時の貴重な資料だ。2.グラチャンの各レースには、インター200とかグラン300などの名がついていた。4.クラブ員がマシンのメンテナンスにてんてこまい。5.奥様たちはホスピタリティ担当。アマチュアのクラブレースとは思えないサービスに感激。6.フリー走行で熱心だったのは北野選手（右から2人目）。7.コースマーシャルがクラッシュしたマシンをすばやく復帰させる。